

[タイム] ホの沢遡行開始(7:20)→終了(8:10)

鬼ヶ嶺沢支流への沢

1989年9月9日

6:15遡行開始。沢幅は割とあるが、水量の少ない沢である。そのせいか沢には雑草が茂り、時々やぶこぎに近い状態になる。10分程遡ると、4mの滝が出てきた。この沢最大の滝である。左岸をシャワーで直登する。最初は簡単に登れると思ったが、ホールドは思ったより少なかった。

このあとしばらく暗い沢筋となる。そして3m最後の滝。右岸をシャワーで直登する。このあと沢はヤブでうまる。まだかなりの水量があるため、無理して突破したら、

その先でアッというまに流れがなくなってしまった。岩屑の下から大量に湧き出る水がこの沢の水源。八溝山系には湧水が多いとはいえ、ここの湧水は特に量が多い感じである。

(記)

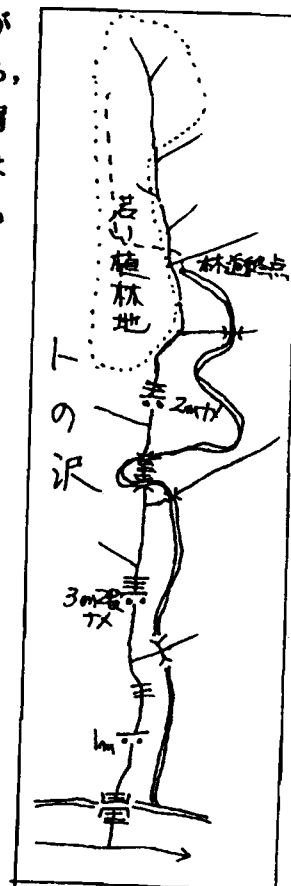
[タイム] への沢出合(6:15)→終了(6:50)

鬼ヶ嶺沢支流トの沢

1989年9月3日

トの沢(仮称)は、林道小太郎線とほぼ並行して流れている。出合はちょっと深い谷を思わせるが、全体としてはなだらかな流れが続いている。滝は最大のもので3m。ここはホールドが無数といってよいほど多く、簡単に登れる。あと1~2mのが2個あるのみ。

源頭付近は、まだ新しい造林地である。植林されたばかり



りの杉苗が草に負けそうになっている。そんな中を沢はいくつにも分岐しながら、だんだんとやせ細ってゆく。遡行終了7:35。所要時間は1時間15分であった。

(記・一)

[タイム] トの沢出合(6:20)→終了(7:20)

鬼ヶ煩沢支流チの沢

1989年5月28日

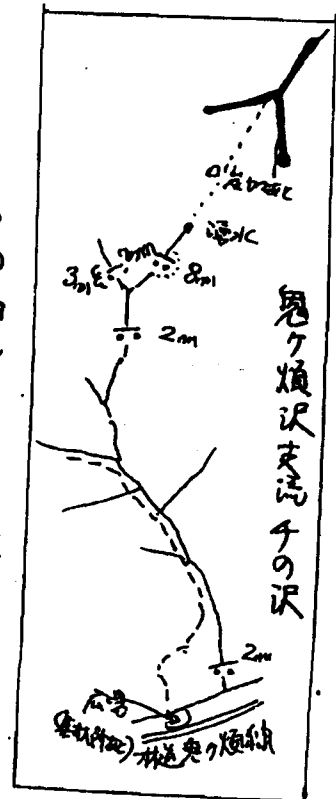
L1

尾根から急な斜面を5分ほど下ると、炭焼き釜があった。このあたりでも炭焼きが行われていたらしい。その後すぐ湧水があって、いよいよチの沢(仮称)の下降が始まる。すぐに8mの滝。左岸を捲いて下る。クライミングダウンも可能であるが、捲いてしまった方が早い。このあとはずっと平凡なままの下りとなる。

右岸から3本目の支沢が合流すると、右岸にしっかりした道が出てくる。ブルで拓いた林業用の道である。沢は平凡なままだし、ここで沢から上がることにする。

(記・.....)

[タイム] 下降開始(10:30)→林業用歩道(11:15)→鬼ヶ煩沢出合(11:25)



鬼ヶ煩沢支流りの沢右俣、中俣、左俣

1989年5月28日

L

檜沢出合の広場に車を置いて、8:00遡行開始。樹林帯の中の細い沢である。1mくらいの小滝が2つかかるが、特に問題となるところもない。20分程歩いて左俣出合。奥に4mほどの滝がかかっているのが見えるとはいうものの、水量も少なく細い流れの左俣を見送って本流を進むが、後から考えると、この左俣こそこの沢の本命ともいうべき沢であった。